

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

様式1（小・中）

1 前年度 評価結果の概要	<p>・学力向上に関しては、職員一人一人が児童の実態に即してマイプランを立て、目標達成のために努力することができた。国語科において、子ども同士が考えを交流したりつないでいったりする場面を設定した授業づくりに取り組めた。しかし児童のアンケートの結果を見ると目標から5ポイントほど低かった。次年度は、どの授業においても話し合う活動と振り返りの活動を取り入れ、児童の授業評価をもとに授業力向上を目指す。</p> <p>・心の教育に関しては、生活アンケートの活用等いじめの未然防止・早期対応を心がけることができた。また、学校区には歴史的価値のあるものや地域人材など教育資源が多いので、次年度は特に高学年で「ふるさとを誇りに思う教育活動」の充実を図っていく。</p> <p>・今年度の途中でタブレットが更新されたため、協働学習などできることも増えた。今後はさらに教育の質の向上を目指してICT機器活用の充実を図っていく。</p>
----------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2 学校教育目標	<p>生き抜く力の育成「やさしく かしく たくましく」 ～自ら進んで学び 心豊かに たくましく生きる子どもの育成～ 【めざす子ども像】○人の気持ちに寄り添うことができる子ども ○「ひと もの こと」にかかわって学び、進んで学習する子ども ○望ましい生活習慣を身に付け、元気な心と体でがんばる子ども</p>
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 本年度の重点目標	<p>① 日々の授業において話し合う活動と振り返りの活動を取り入れるとともに、ICTの効果的な活用を探り、児童の授業評価をもとにした授業改善を図る。 ② ふるさとを誇りに思う教育活動の充実</p>
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1) 共通評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	・教職員間でマイプランを共有するとともに、ふり返りを年3回行い校内研究等により取組の促進を図る。	A	・6月に1回目の振り返りを行った結果、マイプランの成果指標を達成できたと自己申告する教師は80%。常にマイプランを意識した授業を実施することを職員間で共有していく。	A	・11月の振り返りでは成果指標の達成は80%と6月と変わりなかったが2月の振り返りでは、88%であった。全職員がマイプランを意識して授業の実践をすることができ、目指す力を児童に付けることにつながった。	A	・校内研の取組が実際の数字に表れており、先生方の日頃の努力が感じられた。
	○話し合う活動と振り返りの活動を取り入れ、児童の授業評価をもとにした授業改善	○「自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した児童80%以上 ○「学習内容を振り返る活動がよく行われている」と回答した児童85%以上。	・「自分の考えを広げる」「まとめる」「もつと良い方法を選ぶ」などの話し合いの目的を明確にした話し合う活動を設定する。 ・児童による授業評価を年に3回行う。	A	・「自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した児童が91%であり、各学年の実態に合わせて話し合い活動を行うことができている。	A	・「自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と回答した児童は97%で、前回よりさらに上がった。各学年で話し合う活動を積極的に取り入れ、実践することができた。4～6年生の県学力調査(国語)では、全学年で県の平均を上回ることができた。	A	・県学習状況調査の結果にも表れているように、取組の成果が表れている。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手の気持ちを考えることができる」や「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童90%以上。	・児童会を中心としたアルミ缶回収等ボランティア活動をより主体性をもたせた取組として改善・充実を図る。 ・地域GT、保護者参加型のふれあい道徳の実践(教育フェスタ等)	A	・アンケート結果から回答率98%と目標の90%を達成できている。今後も子どもたちが主体的に活動できるよう、委員会ごとの「大作戦」を継続して取り組んでいく。地域の方への感謝の気持ちを表す「ありがとう集会」にも今年度はできる範囲で取り組んでいきたい。	A	・アンケート結果から、回答率98%の達成が見られた。児童会による異学年交流行事も、主体的に取り組むことができた。各委員会による「大作戦」も具体的な取り組みにつながった。 ・地域の方への感謝の会はコロナのために残念ながらできなかったが、身近な方へは、学年や委員会独自に感謝の気持ちを伝えることができた。ふれあい道徳により、保護者の方へも子どもたちの学びを知らせることができた。	A	・特になし
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校は楽しい。」と回答した児童95%以上。	・生活アンケートや教育相談週間の活用。 ・いじめ防止基本方針を周知徹底し、迅速かつ組織的対応の徹底を図る。	B	・「学校は楽しい」と回答した児童は、91%であり、やや下回っている。生活アンケートを毎月実施したり、教育相談週間を設けたりして、児童の実態を把握することができた。楽しくないと回答した児童については、情報を全職員で共有し、組織的に対応をしようとしている。	A	・「学校は楽しい」と回答した児童は、94%であり、おおむね達成できた。生活アンケートを毎月実施したり、QUアンケートを実施したり、教育相談週間を設けたりして児童の実態を把握し、いじめの早期発見、早期対応に努めた結果と思われる。	A	・「楽しい」と答えた児童が94%ということはすばらしい。6%の子どもの意見を聞いてもらって100%を目指してもらいたい。
	◎ふるさとを誇りに思う教育活動	○東川登町の自慢を答えることができた児童90%以上。	・生活科・総合的な学習の時間・国語科等と関連させた地域の特色を生かした学習の充実を図る。	B	・1学期で地域を学んだり、地域人材を活用したりした学習を行った学年は3学年でこれまでの学びから地域の自慢を答えることができた児童は68%であった。2学期までに地域学習を取り入れた授業を全学年で実施するよう計画している。	A	・コロナのために、活動の縮小や変更等はあったが、全学年で地域を学び、地域人材を活用した地域学習を行うことができた。実際の活動の中で地域のよさを感じ、地域の自慢を答えることのできた児童は94%であった。	A	・町の公共施設に子ども達が作った門松を飾ってもらって、町民の心が和んだ。 ・出前講座でお世話になったが、「ふるさと」学習の時、熱心に聞いてくれていてよかった。
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●健康に食事は大切であるとする児童95%以上。	・生活状況調査、食に関する意識調査の実施し、日々の給食指導に役立てる。 ・給食週間の取組を充実させる。 ・定期的に保健だよりを発行する。	A	・6月の食育月間での早寝早起き朝ごはんチェックシートの活用や望ましい食習慣について保健だよりでの定期的な発行により学校評価アンケートで95%と成果指標を達成することができた。今後は11月の食育月間や1月の給食週間で「健康に食事が大切である」ことをより周知していくことができるような取り組みを計画していく。	A	・11月の食育月間での早寝早起き朝ごはんチェックシートの活用や、委員会活動において1月の給食週間で給食を感謝する会を計画した。これらの活動を通して、学校評価アンケートでは「健康に食は大切である」と考える児童が98%と中間結果よりも3%上回ることができた。	A	・特になし
	○「スポーツチャレンジ」への取組を通じた体づくり	○各学年2種目以上にエントリーし、達成賞を目指す。	・「縦割りで挑戦8の字とび」にエントリーし、年間を通じた取り組みとする。 ・各学年で年間を通して切れ目のない継続的な取組とする。	B	・まだ縦割りでの活動は新型コロナウイルス感染症のためできていないが、下半期には活動ができればと思う。 ・6月、7月と月ごとに取り組む項目を設定し、各クラスごとに体育の授業の中で取り組むことができた。	A	・縦割り班での8の字跳びにもエントリーすることができた。スポーツチャレンジは2種目以上エントリーして2年生は金賞をとり、8の字跳び以上の学年も県内10位以内に入ることができた。	A	・昔遊び等を用いて休日に友達と外で遊べるように、学校側から脱ゲームを働きかけてほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・月1回それぞれの職員に自分の勤務状況を示し、勤務時間の縮減を図る。 ・選択制定時退勤を確実に実施する。 ・「働き方改革」のための議論の場を年間2回以上設定する。(改善アンケート7月1月、研修会8月実施)	B	・8月までの時間外勤務平均は、一人当たり月38時間だった。同平均が65時間以上は職員いなかったが、月60時間を超えた場合の時間外勤務縮減を目指していく。	A	・業務記録の個票を毎月配布し、自己の振り返りができるようにしたこと、一人一人が勤務時間の縮減を意識できた。1月末までの時間外勤務はさらに減少し月平均で36時間となった。 ・職員会議の折に「労働安全衛生委員会」の時間を設定し、それぞれの取組について少人数で話し合う場を設けるなど、自己の取組をより積極的に進めることに取り組む。	A	・夜遅くまで職員室の電気がついていたり、休日に先生が出勤されているのをよく目にする。これから先生方の仕事の効率化を図っていただきたい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○ICT利活用教育	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の充実	○電子黒板やタブレットを使った授業はわかりやすいと回答した児童90%以上。	・参観授業等で年2回以上タブレット端末を活用した授業を行う。 ・国語の授業研とタイアップした研修会を年間2回以上行う。	A	・「電子黒板やタブレットなどを使った学習は、わかりやすい。」という項目に、肯定的な回答をした児童は、95%である。普段の授業から電子黒板を活用することができている。その一方で、タブレット端末については、活用する機会を少しずつ増やしているところである。効果的な活用方法については、今後の研修で検討していきたい。	A	・電子黒板は、日常的に活用できており「電子黒板やタブレットなどを使った学習は、わかりやすい。」という項目に肯定的な回答をした児童は、97%であった。また、タブレット端末を活用する機会も増えており、オンライン学習やリモート放送など場面に合わせて活用することができた。	A	・コロナ禍で、リモート学習など、児童がよく理解をしてタブレットを扱っていると思う。
○官民一体型教育	○地域学校協同本部を活用した教育の充実	○地域の方とする学習は自分のためになっていると回答した児童90%以上。	・地域学校協同本部事業計画に基づいた教育活動を意図的・組織的に学習に取り入れて実施する。	B	・コロナの影響で、地域の方を招いての学習は一部しか実施できていない。年度末に向けて、引き続き地域学習の充実を図っていく。	A	・コロナ禍ではあったが、野菜・いちご・焼き物作りや老人会との交流学習など可能な限り地域と連携した取組ができた。98%の児童が自分のためになっていると回答し、児童が自身の成長を感じることができた。また地域でお世話になっている方へ児童が年賀状を送るなど、間接交流もできた。	A	・地域の方々に来てもらった「花まる学習」はできなかったが、子ども達から年賀状をいただきました。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・学力向上としては、全職員がそれぞれマイプランの目標達成のために授業力向上を目指して努力することができた。国語科の研究は2年目を迎えたが、各担任がそれぞれに手ごたえを感じ、児童のアンケートの結果からも確実に深化したことが見て取れた。</p> <p>・心の教育に関しては、「ふるさとを誇りに思う教育活動」として、東川登町のよさを実感する取組を学年に応じて実施し、成果が見られた。また、毎月の生活アンケートや教育相談週間での面談などの取組は、いじめの未然防止・早期発見につながり、児童が安心しての学校生活を送れることにつながった。来年度は、友達関係など身近なことだけでなく、障害者や外国人、性的マイノリティの方々への差別や人権侵害にも目を向けるなど、人権に関する知的理解と人権尊重の意識を高めるしていく。</p> <p>・健康・体づくりに関しては、スポーツチャレンジで良い成績を納めることができ、体力向上面だけでなく、学級経営にも良い影響が見られたので、来年度も継続していく。</p> <p>・「働き方改革」に関しては、頂いた意見をもとにこれまで同様に業務改善を目指していく。</p> <p>・ICT利活用面では、コロナ禍でリモート授業などタブレットを活用した取組が進んだので、次年度は、そのノウハウを協働学習などで生かすなど、更に効果的な活用を図り、教育の質の向上を目指していく。</p>
-----------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------